会員のみなさまと学会を結ぶ

No.53 2015

Letter for Members

【コンテンツ】

●支部学術大会報告……81
●Indonesian Prosthodontic Society と Japan Prosthodontic Society の Joint Meeting 参加報告……84
●42nd Indian Prosthodontic Society in Chandigarh 参加報告……85

支部学術大会報告

●九州支部学術大会

平成 26 年 8 月 25 日（日），福岡県歯科医師会館（福岡市中央区大名）において，福岡歯科大学咬合修復学講座有床義歯学分野　髙橋　裕大会長のもと，平成 26 年度公益社団法人日本補綴歯科学会九州支部総会・学術大会が開催されました．今回は一般口演を行わず，共通テーマ口演 5 題，ポスター発表 15 題，専門医ケースプレゼンテーション 2 題が発表され，活発な質疑応答が行われました．

特別講演には日本歯科大学生命歯学部歯科補綴学第 2 講座の新谷明喜教授をお招きし，「先端技術による補綴治療」と題して，金属代替材料である，グラスファイバーによる高強度ハイブリッド型コンポジットレジンブリッジについて，基礎研究から臨床応用に至るまで，大変多くの情報をもとに貴重な御講演をしていただきました．

併催された生涯学習セミナー「症型分類と補綴の長期予後」では，座長の福岡歯科大学咬合修復学講座冠橋義歯学分野　佐藤博信教授のもと，都築　尊先生（福岡歯科大学咬合修復学講座有床義歯学分野）と「咬合三角」の提唱者であられる宮地建夫先生（東京支部）に御講演いただき，補綴学における症型分類の意義と長期経過症例をご提示いただきました．市民フォーラム「歯科インプラント治療の良いところ　今，問題になっていること」では，松浦正朗先生（東京歯科大学口腔インプラント学講座　客員教授）をお招きし，一般の方を対象にわかりやすくお話しいただきました．大会終了後，市民フォーラムを聴講された市民の方から問い合わせのお電話をいただくほど，好評でした．

日常臨床で遭遇する難症例についてより議論を深め，市民に向けて正確な情報を発信し，補綴学を通して社会貢献するという公益社団法人としての役割の一端を担えたのではないかと思っています．ご尽力いただきました諸先生方に厚く御礼申し上げます．

（福歯大　都築　尊）

特別講演演者　新谷教授と

ポスターセッションの様子

●中国・四国支部，関西支部合同学術大会

この度，平成26年度公益社団法人日本補綴歯科学会の中国・四国支部と関西支部が合同で平成26年度支部学術大会を，9月6日（土），7日（日）の両日倉敷市芸文館において開催させて頂きましたのでご報告致します．両支部合同の学術大会は平成21年度に関西支部のお世話で開催して以来2回目です．

学術大会初日は広島市立リハビリテーション病院の吉田光由先生による「寝たきりにならない為の補綴（ほてつ）歯科医療」と題した市民フォーラム，2日目の特別講演2題は広島大学の津賀一弘教授に「先端歯科補綴学の挑戦と波及効果」，大阪歯科大学の小正　裕教授に「超高齢社会における歯科医療の重要性」と題して講演して頂きました．特に，これからの超高齢社会に求められる歯科医療と先端歯科補綴学の両面から，示唆に富んだ講演となりました．また，生涯学習公開セミナーは補綴学会を挙げてのテーマとして「CAD/CAMハイブリッド冠を考える」について，大阪歯科大学末瀬一彦教授と大阪大学中村隆志准教授にそれぞれ保険導入の背景や臨床応用についてご講演して頂きました．この新しい治療技術を学会として地域に情報提供していただき，地元の関係者にとっても大変貴重な公開セミナーとなりました．また，これに先立ち関連する接着のトレンドを大阪大学峯篤史助教に，新しいCAD/CAMシステムの概要を末瀬教授に解説頂くランチョンセミナーを企業協賛により開催しました．

一般口演は14題，ポスター発表は20題，専門医ケースプレゼンテーションは3題と，両支部から広範囲なテーマで演題があり，両支部交えて活発な質疑応答が交わされました．

そして，2日間を通して学会員の参加者465名に加えて，地元の歯科医師会関係の参加者が延べ約200名，市民フォーラムへも200名を越える方に来場して頂きました．また，土曜日に開催した懇親会は小雨の中を会場まで移動して頂く事になりましたが，来賓，会員及び歯科医師会関係者286名のご参加を頂きました．地元倉敷歯科医師会の協力も得て，中国・四国支部と関西支部の会員同士の懇親が深まる大いに盛り上がった会となりました．

また，次年度はそれぞれの支部が独自の支部会を開催することを確認し，両支部の活動が更に盛り上がる事を祈念して散会致しました．

（中四国支部　近藤康弘）

『市民フォーラム』
吉田光由先生による市民フォーラムには200名以上の参加があり盛況だった．

『懇親会』
懇親会場には矢谷博文理事長、伊東香織倉敷市長もご参加頂いた．

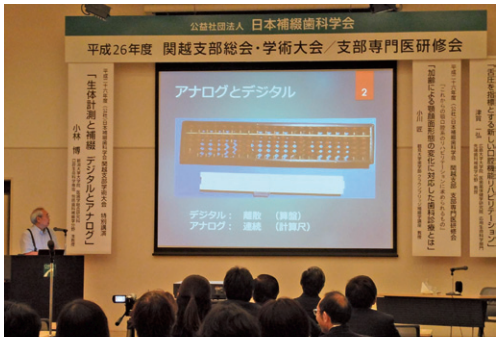
●関越支部学術大会

平成26年9月23日秋分の日，秋晴れの下で平成26年度関越支部総会・学術大会（大会長・藤井規孝（新潟大））がチサンホテル新潟にて開催されました．今年はできるだけ多くの会員に集まってほしいという小出馨支部長（日歯新潟生命歯学部）の意向により，参加者は80名を超え，一般口演5題，専門医申請ケースプレゼンテーション1題の発表について活発な質疑応答が行われました．特別講演では新潟大学の小林　博先生に「生体計測と補綴　デジタルとアナログ」と題して，デジタルとアナログの概念に始まり，アンプやペンレコーダーを用いていた頃と現在の筋電図の信号処理の仕組みや補綴研究の評価，デジタルからネットワークへの広がりなど，大変興味深いご講演を頂きました．

同日に「これからの顎口腔系のリハビリテーションに求められるもの」というテーマの下，支部専門医研修会も併催され，鶴見大学の小川　匠先生から「加齢による顎顔面形態の変化に対応した歯科診療とは」，広島大学の津賀　弘先生から「舌圧を指標とする新しい口腔機能リハビリテーション」の演題で，超高齢社会が進む日本において多様化する顎口腔系の形態と機能の変化とその対応についてご講演頂きました．

今年度は新潟だけではなく群馬県，栃木県からも多数の参加者がお集まり下さり，それぞれの講演について積極的に意見交換が行われ，おかげさまで大盛況のうちに会を終えることができました．

（新潟大　塩見　晶）



特別講演の小林先生

専門医研修会講師の小川先生と小出支部長

専門医研修会講師の津賀先生と小出支部長

●東海支部学術大会

平成 26 年 10 月 4 日（土）5 日（日）に，朝日大学歯学部口腔機能修復学講座歯科補綴学分野局部床の都尾元宣を大会長とし，平成 26 年度東海支部総会ならびに学術大会が岐阜市のじゅうろくプラザにおいて開催されました．

4 日土曜日はお昼から「健康な生活のための歯科と運動」をテーマに市民フォーラムが開催され朝日大学経営学部教授山本英弘教授が「健康維持には“ちょきん”が一番」と題して講演をいただき続いて，松本歯科大学の鷹股哲也教授が「防ごう！スポーツ時の口・歯のケガ」と題して講演をいただきました．その後，専門医申請ケースプレゼンテーションが 3 題発表され一日目は終了いたしました．5 日日曜日は午前より一般口演 13 演題の発表があり，活発な質疑応答が交わされました．午後からは全国統一テーマである「ハイブリッドレジンの CAD/CAM 冠の対応」と題して 4 月から保険導入された CAD/CAM 冠について専門学会である補綴学会の立場から生涯学習公開セミナーが開催され，福岡歯科大学の佐藤博信教授が「ハイブリッドレジンでの CAD/CAM 冠の対応　保険適応に至る背景と臨床応用についての考え方」と題して講演をいただき続いて，大阪歯科大学の田中昌博教授が「よりよい CAD/CAM 冠への技工サイドからの提案」と題して講演をいただきました．

昨年は台風一過の風の強い二日間ではありましたが，今年は台風 18 号が接近中の学会でしたが地方会ならではの雰囲気で会場内は充実した討議が行われ有意義な学術大会でありました．　（朝日大　都尾元宣）

生涯学習公開セミナー

学会運営スタッフ

Indonesian Prosthodontic Society と Japan Prosthodontic Society の Joint Meeting 参加報告

インドネシア補綴歯科学会―日本補綴歯科学会ジョイントミーティングが，2014年10月30日～11月1日にインドネシア・バリ島にて開催されましたのでご報告させていただきます．バリ島は火山やビーチなどが共存するリゾートであり，“プラウ・デワタ”（神々の住む島）として知られています．会場となったGarand Nikko Baliは観光地としても人気のあるNusa Dua地区にあり，美しい海に面した絶好のロケーションにて学会が行われました．

本学術大会はインドネシア補綴歯科学会と日本補綴歯科学会が学術交流を締結するにあたり企画され，両学会の親密な協力により実現しました．大会初日にはオープニングセレモニーが行われ，大会長であるProf. Laura S. Himawan (University of Indonesia) の挨拶後に，日本補綴歯科学会とインドネシア補綴歯科学会の学術交流協定締結の調印式が行われ，矢谷博文理事長とDoddy Soemawinata理事長（インドネシア補綴歯科学会）により学術交流協定書に調印が行われました．

学術大会はシンポジウム・講演，一般口演・ポスター，ハンズオンによって構成され，日本からは小宮山彌太郎先生（ブローネマルク・オッセオインテグレイション・センター），水口俊介先生（東京医科歯科大学），近藤尚知先生（岩手医科大学），上田貴之先生（東京歯科大学）（講演順）がゲストスピーカーとしてご講演されました．参加者はJPSから90名が参加し，演題は9題の口演発表，49題のポスター発表が行われました．本大会のテーマは”Prosthodontic-next”であり，次世代の補綴診療に関してインドネシアと日本の補綴医による活発な討論がなされていました．また，クロージングセレモニーではアワード受賞者の発表が行われました．アワードは若手と一般が設けられており，日本からも多くの先生方が選出されました．若手研究部門からは太田　緑先生（東京歯科大学），一般研究部門から原口美穂子先生（東京医科歯科大学）と石川佳和先生（さくらデンタルクリニック），一般症例報告部門から隅田由香先生（東京医科歯科大学）が受賞されました．

今後もインドネシア補綴歯科学会との学術交流を継続することにより，両国の友好と補綴分野における研究・臨床の発展に寄与するのではないかと期待されます．

新保秀仁（鶴見大）

矢谷博文理事長とDoddy Soemawinata理事長による調印式

クロージングセレモニー（前列左より大久保力廣国際渉外委員長，矢谷博文理事長，Doddy Soemawinata理事長，Laura S. Himawan大会長）

ガラディナー会場

42nd Indian Prosthodontic Society in Chandigarh 参加報告

平成 26 年 11 月 6-9 日にインド北部のシャンディーガル Park Plaza Convention Centre にて開催された 42nd Annual Conference of Indian Prosthodontic Society に参加させて頂きました．これは，インド補綴学会（IPS）と日本補綴歯科学会（JPS）の交流の一環であり，徳島大学の松香先生，鶴見大学の小川先生，大阪大学の権田先生と水口の 4 名が JPS のご推薦のもと Invited Speaker として以下の講演を行いました．Basic Mechanisms and Management of Orofacial Pain（松香先生），Virtual Reality image appliances for treatment planning in Prosthodontic Dentistry（小川先生），Comparison among different implant overdenture attachments（権田先生）The miniature all-in-one bruxism detection/analyzing device（水口）．

今回の本学会のテーマは，“Inspire. Innovate. Integrate.” であり，インド国内はもとより海外からの Invited speakers も多数参加しておりました．そのため，学会場は参加者，演者の熱気で充満しており，現在の IPS の熱さを体感することができました．学会は，Key note speaker（招待講演）16 題，Guest speaker（招待講演）46 題，シンポジウム 5 セッションに加えて，Faculty paper（教員発表）149 題，Student paper（大学院生発表）215 題，Poster presentation 183 題，テーブルクリニック 127 題と非常に多くの演題が寄せられていました．さらに，学会前日には pre-conference schedule として臨床に直結した内容のコース，すなわち Complete denture 関連 3 コース，RPD 関連 5 コース，Fixed prosthodontic 関連 7 コース，Implant 関連 3 コース，Maxillary prosthesis 関連 2 コースが開催されていました．

これら多岐にわたる歯科補綴学，特に補綴臨床を中心に広く熱く講演，討議が繰り広げられていました．とりわけ CAD/CAM を応用した総義歯，メタルフレームの製作や virtual articulator を駆使した CAD/CAM クラウンブリッジから顎補綴に至るまで “Digital ～” に関する演題が多い印象を受けました．これも IT 立国であるインドの特色なのでしょうか．他にも sleep apnea や顎補綴を含む implant シミュレーション，審美補綴さらにはプロフェッショナリズムに関する講演まであり，非常に多岐にわたるプログラムでした．ただし Basic Science に関する研究は少なく，症例報告，臨床研究に関する報告が大部分を占めていました．

シャンディーガルはインド北部の都市で，2 つの州の州都でありながら，いずれの州からも行政上独立した連邦直轄領（江戸時代の天領のようなものでしょうか）．そのため市民は，この街に高い誇りを持っています．これは街の愛称が “City Beautiful” であることや，ル・コルビュジエによる都市計画で国際的に知られていることも背景にあるのでしょう．事実，インド国内で最も高い生活水準ならびに収入水準を誇る都市であり，最もインドらしくない街だそうです．

IPS 参加者　権田先生（大阪大学，左），小川先生（鶴見大学，中），松香先生（徳島大学，右）

多くの参加者の熱気にあふれる学会ロビー

本学会参加に際して，JPSの国際渉外委員会の先生方のご尽力ならびにIPSからの多大な御厚意により，非常に快適，安心な学会参加をさせて頂きました．今回のような貴重な機会を与えて下さいましたJPSの先生方に感謝の意を表すると共に，今後は多くの先生方にこのような経験をして頂きたいと思います．なお来年の43rd IPSは，2015年12月14日～16日にインド中南部のハイデラバードで開催されるとのことです．

水口　一（岡山大）

招待講演の後，座長ならびにIPSより表彰される小川先生

広大な企業展示場（ドーム）にも多くの参加者が集まっていました．

【投稿募集】

Letter for Members では，各支部の学術大会報告，日々の研究の報告など，会員の皆さまの投稿をお待ちしております．採否は事前にお知らせいたします．

投稿は，公益社団法人日本補綴歯科学会事務局（jpr-edit01@max.odn.ne.jp）まで，メールにてお寄せください．